

# // 投稿の泉 //

高波にさらわれた多数の潮干狩り客を

救助した救難所及び救難所員を表彰

救助活動は、現場の状況が荒天及び浅瀬等のためにボートが接近することが困難であつたことからボートを岩場から安全な場所まで離し待機させ、水上オートバイを活用し、孤立者を一名づつ随時収容し、待機しているボートへ安全に搬送、迅速的確な救助活動を行い、八名を救助しました。

社団法人琉球水難救済会（会長 翁長雄志）では、六月一三日第五回通常総会において、岩場等に孤立遭難した人々を救助した残波ビーチ救難所（所長 有留美樹）及び救難所員に対し、会長表彰を行いました。

平成一九年四月一八日午後二時頃、読谷村残波海岸リーフ内において、潮干狩りをしていた多数の人が、天候が急変し、リーフ内に高波が押し寄せ、陸に戻ることが出来なくなりました。

その孤立遭難者の救助要請を受けた残波ビーチ救難所は、直ちに救難所員三名と水上オートバイ及びボートを現場へ急行させ、救助を求めていた遭難者を確認し、救難所員が一致協力して救助活動を開始しました。



左から、仲里、藤巻、福地救難所員

表彰式には、第十一管区海上保安本部城野本部長及び日本水難救済会磯貝常務理事が出席して行われ、受賞者に対し、琉球水難救済会比嘉榮仁副会長から表彰状と副賞が贈られました。

表彰式には、第十一管区海上保安本部城野本部長及び日本水難救済会磯貝常務理事が出席して行われ、受賞者に対し、琉球水難救済会比嘉榮仁副会長から表彰状と副賞が贈られました。

海中転落した磯釣り者を

発見救助した救難所員を表彰

大分県水難救済会（和田至誠会長）は、本年四月二〇日午後、大分県水難救済会米水津救難所において、大分県水難救済会米水津救難所所員の日高真一氏、増井幸明氏、山田春光氏の三名に対する会長表彰伝達式を行い、その功績を讃えました。

昨年一二月二九日午後十一時過ぎの深夜、大分県佐伯市米水津所在の沖黒島灯台から二二〇度約二三〇〇メートル付近でイカ釣り漁を操業中の漁船第五日新丸が、海面で救命胴衣の反射板が光ったのに気づき、僚船の第二十六南豊丸の協力を得て付近海面を捜索し、海中転落した遭難者を発見救助

したもので

被表彰者からは、「当然のことを行つたもの」「今後も積極的に救助活動を行う」といった心強い発言がありました。



左から、日高所員、山路所長、山田所員、増井所員

また、濡れた着衣を搬送した病院で計測したところ約三〇キログラムもあつたとのことで、海中転落者の体重を合わせると約一〇〇キログラムにもなり、船内への引き揚げが大変な作業であつたとのことです。

表彰式参加者からは、今回のこととは、救命胴衣着用の重要性と磯釣りの単独行動の危険性を再認識させる事例であるとの発言がありました。

漂流中のサーファーを救助した

救難所員を跳子海上保安部長表彰

銚子海上保安部（部長 小松富士夫）は、漂流中のサーファーを救助した四名を部長表彰しました。

平成一九年五月一九日午後、千葉県  
九十九里町片貝漁港沖でサーフィンに興じ  
ていた男性（東京都在住、三三歳の会社員）  
は、沖へ流れる離岸流に乗った状態になり、  
その流れの速さからの自力離脱することができ  
できずにサーフボードに掴まつたまま流れ  
に身を任せることで精一杯の状態となりまし  
た。

この状態を目撃した一般の方から、第三管区海上保安本部司令センターへ一一八番通報があり、銚子海上保安部からの出動要請を受けた千葉県水難救済会九十九里町救



左から、小松鉢子海上保安部長、作田節氏、石橋之利氏、成川尚義氏、谷川九十九里町副町長

難所（九十九里マリン）は、ただちに救助艇つくるもVを出動させました。

当日は、海上風・濃霧警報が発令され、うねりの高さ一・五メートルという厳しい海上模様でした。

本表彰案件は、救助者の海難救助に対する積極的な姿勢とボランティア精神によるところが非常に大きく、称賛に値するものであり、被表彰者は、作田 節氏、伊藤正幸氏、石橋 之利氏、成川 尚義氏の四名です。

なお、つくもVに乗船していた救助員の作田 節氏は、海上保安友の会銚子支部の会員でもあり、海上保安業務の良き理解者で、今後も活躍が期待されています。

～\*～\*～\*～\*～\*～\*～

#### 平成一八年度青い羽根募金

##### 高額寄付者を表彰

社団法人琉球水難救済会（会長翁長雄志那覇市長）では、平成一九年二月一九日、平成一八年度青い羽根募金高額寄付事業所及び団体に対する日本水難救済会会长表彰伝達式を那覇市長室で行いました。



受賞事業所及び団体

伝達式には、第十一管区海上保安本部星島次長、沖縄県漁業協同組合連合会下地会長及び表彰事業所、団体関係者が出席し、翁長会長あいさつ、星島次長あいさつが行われ、表彰は、沖縄電力、沖縄県及び名護市、うるま市、沖縄市、糸満市、宮古島市、恩納村の市町村、航空自衛隊、陸上自衛隊の一事業所、九団体が表彰され、翁長会長から感謝状が伝達されました。

一方、宮古島市については、宮古島海上保安署〔旧平良〕において伝達式を行いました。  
赤い羽根やみどりの羽根は浸透しているが、必要性について感想等が述べられました。因みに、市町村等における募金活動は、各職員及び自治会からの募金によつて支えられています。

一方、宮古島市については、宮古島海上保安署〔旧平良〕において伝達式を行いました。

##### 海の日・那覇港湾巡りに伴う

##### 海の安全教室を実施

社団法人琉球水難救済会（会長翁長雄志那覇市長）では、平成十九年七月十五日、内閣府沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備事務所及び財団法人港湾空港建設技術サービスセンターが主催する「海の日クイズ大会＆海の安全教室」に参加し、水難救済思想の普及活動を行いました。

海の安全教室の開催は、財団法人港湾空

港建設技術サービスセンターからの要請を受け、那覇港内クルージング船オルカ号に乗船し、タイムスケジュールの関係上僅かな時間ではありましたが、親子で参加した子ども達にライフジャケットの試着、つける理由、海での安全な遊び方、海で事故があつた場合における一一八番への通報周知などを行なうとともに、ライフジャケットが浮き袋のように浮くことを実際にベビー容器にライフジャケットを浮べ、子ども達



オルカ号船上での海の安全教室

に体得させたところ、非常に興味を示し、ライフジャケットを着用しており、命の大切さについて知つて貰いました。

参加者は、公募により親子約三〇〇人が参加、午前、午後に分かれ乗船し、海の日クイズ大会及び那覇港内のクルージングを楽しんでいました。

～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～

小学五年生が、お小遣いを貯めて

青い羽根募金

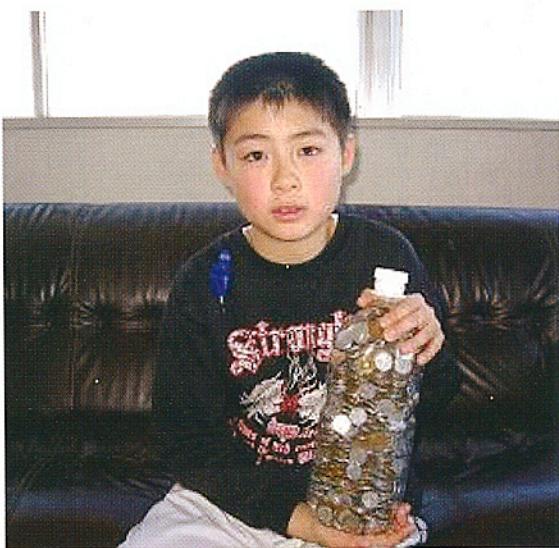
七尾救難所長村田章氏のお孫さんである小学校五年生の村田正太君は、「海での事故防止や人の命を救うために役立てて欲しい。」と、平成一九年一月五日、七尾保安部を訪れ、篠原保安部長に青い羽根募金を手渡しました。

一年半がかりで、お年玉やお小遣いをペットボトル一杯まで貯めたもので、金額は、一四、三四八円でした。

正太君の将来の夢は、海上保安官だそうです。



募金を手渡す正太君



村田正太君